

企業訪問 資源循環レポート

フルハシEPO（株）愛知第七工場（半田）

木質バイオマス燃料で 持続可能な低炭素エネルギー 社会の構築を目指す

フルハシEPO（株）



愛知第七工場（半田）事務所棟

フルハシEPO 株式会社 愛知第七工場（半田）

■代表者／代表取締役 山口直彦

■所在地／半田市日東町4番53

TEL 0569-58-9088 FAX 0569-58-9089

昭和22年創業、翌年「古橋製函（株）」設立。昭和31年製紙用木材チップ部門業務開始。昭和38年「春日井工場」（現愛知第一工場）新設を皮切りに国内外に多数工場を新設、平成20年「フルハシEPO（株）」に社号変更し、同年「川崎バイオマス発電（株）」設立（住友共同電力・住友林業との共同出資）、バイオマス発電に着手。その後も工場増設及び異業種への事業拡張が行われ、平成29年同社とシーエナジー（株）（中部電力グループ）との共同出資にて、地球環境にやさしい再生可能エネルギー開発を目的に、「CEPO半田バイオマス発電（株）」（以下、「CEPO半田」という）を設立。

平成31年「愛知第七工場（半田）」開設、同工場について、フルハシEPO（株）執行役員部長 本田潤二氏、同社執行役員バイオマテリアル事業部本社生産三部愛知第七工場（半田）工場長 大橋健三氏にお話を伺いました。

■トレーサビリティの明確化

工場からコンベアで発電所へ搬送し、そのまま電力になるため、廃棄物のトレーサビリティ（いつ、どこで、どのような経路で届いたかを明確にする。Trace：追跡、と、Ability：能力、を組み合わせた言葉。）が明確です。

住宅の解体時の木材、木箱、木製のパレット、木材製品の製作時の端材等を、産業廃棄物中間処理施設のある同工場で受け入れる。

搬入された廃材は木質チップとなり、製紙用の原材料として製紙会社、バイオマスボイラーの燃料用として販売をしている。

「CEPO半田」の発電所は現在建設中であり令和元年10月に営業運転開始予定。

クリーンな発電方法で環境保全に取り組みます

バイオマス発電は、燃焼を行っても結果的に大気中のCO₂の増加にはつながらない「カーボンニュートラル」によりCO₂を増加させずにエネルギーを作り出すことができるクリーンな発電方法です。木質チップ1tを発電用燃料として使用することにより0.64t相当^{※1}のCO₂削減につながります。



地球環境と子どもたちの未来のために持続可能な社会を実現します

《CEPO半田バイオマス発電所の概要》

- ・ 発電出力：5万kW
- ・ 想定年間発電量：約3.7億kWh
(一般家庭約119千世帯分に相当)
- ・ 燃料種別：木質チップ、パーム椰子殻
- ・ 燃料使用量：約28万t/年
- ・ CO₂削減効果：約15万t/年

■愛知第七工場（半田）概要

- ・ 敷地面積：約6,690㎡
- ・ 施設面積：約2,015㎡
- ・ 建物構造：鉄骨造
- ・ 生産能力：3.6万t/年
将来的には5万t/年を目指す
- ・ 操業開始：平成31年4月

「CEPO半田」で必要となる燃料は年間約28万t、その内訳は、年間木質チップが15万t、PKS（パーム椰子殻）という海外からの燃料源が年間13万t。

木質チップの燃料供給の部分を同社が全て担う。

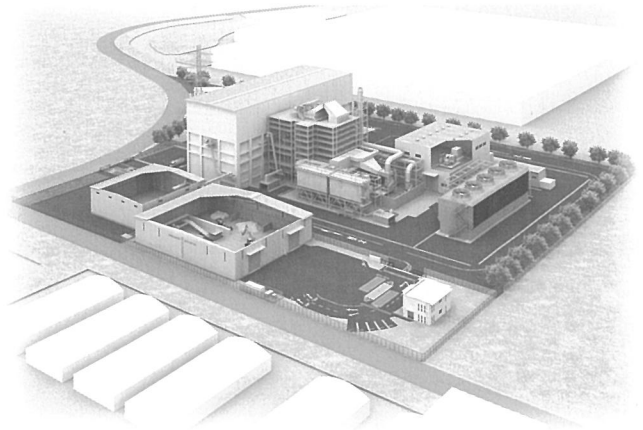
同社工場では排出された廃棄物が、どのように処理され、その後の利用についても明確であることから、排出事業者の方々にも安心して利用していただける。

搬入された廃棄物は大別された後、「二軸解砕機」にて粗破碎され、ハンマークラッシャーで破碎、その後コンベアで運ばれ選別機にて釘などの金属くずを取り除き、木質チップとして再生後、そのままコンベアで「CEPO半田」へ搬入される。

国の施策であるバイオマス発電の推進において、同社の取り組みは国内でも注目され、効率的な資源活用プロジェクトを实践、持続可能な低炭素エネルギー社会の構築に大きく貢献している。



愛知第七工場（半田）施設



CEPO半田バイオマス発電所パース図